

“次なる臨床工学技士像を目指して” アンケート結果報告

Y・ボード委員会

組織委員会傘下の組織として平成19年に発足したY・ボードは、その後アンケートの実施等を重ね、種々活動を行ってきました。

その活動の流れの一環として、平成22年5月に横浜市で開催された「第20回日本臨床工学会」のテーマが“次なる臨床工学技士像を目指して”であることに呼応して、Y・ボードは“次なるY・ボードの行動指針及び目標”を、中期ビジョンとして、また会員の総意として策定するため、全会員に対してアンケートを実施しました。

このアンケートの結果は「第20回日本臨床工学会」での「シンポジウム1：臨床工学技士の存在意義を考える」の一環として発表されました。

本号でその発表内容を紹介しました。

“次なる臨床工学技士像を目指して” アンケート結果報告

熊切 こそ恵, 守澤 隆仁, 岩崎 共香, 長谷川 静香,
藤原 千尋, 児玉 博樹, 田中 健, 出口 英二
(社)日本臨床工学技士会 組織/Y・ボード委員会

I. 背景

平成 15 年に活動を開始した組織委員会は“組織力向上”を目標に掲げてさまざまな活動を行ってきた。その一環として組織委員会が中心として開催してきた「全国臨床工学技士代表者意見交換会」からの一つの提案として、若手会員による委員会「人材活性化委員会（現“Y・ボード”）」が誕生した。“Y・ボード”は、当会の 70%以上を占める 20～30 歳代の若手会員（YG）の意識・動向が、今後の臨床工学技士および技士会のあり方に大きく影響するとの見地から、まずは若手会員の意識調査を行い、また日臨工と会員の意思疎通を図るべく、メルマガ“わいぼード”の配信、“Y・ボード連絡網”の設置等、今後の飛躍のためのインフラ構築活動を行ってきた。

一方、誕生から 20 年が経過した現在の臨床工学技士は、先輩諸氏の医療に貢献しようとする想いによって作り上げてきた姿である。これからの私たち

は、諸先輩方が築き上げてきたノウハウを学びながら、なおかつ常に新しい情報の習得と実践に努めていかなければならない立場にある。しかし、現在の臨床工学技士を作り上げてきた先輩である、40～50 歳代の会員（SG）が 10 年後には全会員の 8.6%まで減少してしまうことがシミュレーションより推測された。

そこで、先輩方が現場を離れてしまう前に、理想の CE 像を実現に結びつけるためには諸先輩方から若手技士へ適切な継承がなされなければならない。この直面する現実に対処するため、また一方、今までの活動の軌跡、インフラの構築を土台として我々は次なる行動に、今挑戦を開始する必要がある。

II. 目的

今後の行動指針を皆様とともに策定し、かつ共有するためにアンケートを実施した。また、このアンケートの結果を第 20 回臨床工学会のシンポジウムにて発表し、SGとYGとのディベートを行う(図1)。

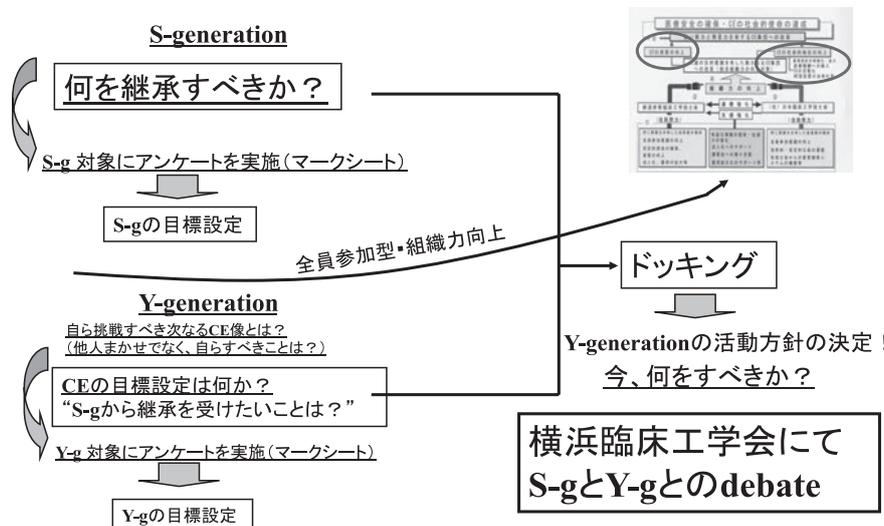


図1 次なる世代へ継承 輝く未来のCE像に向けて～今、何をすべきか～

Ⅲ. 調査方法

平成 21 年 12 月上旬から同年 12 月 26 日の期間に、(社)日本臨床工学技士会会員 10,596 名を対象に、郵送にて送付後郵送にて回収（マークシート方式）とした。

Ⅳ. 回収結果

有効回収数は 2,851 名（回収率 26.9%）で、男性 2,101 名（回収率 26.2%）、女性 710 名（回収率 27.6%）であった。内訳は、20 歳代 29%（839 名）、30 歳代 42%（1,187 名）、40 歳代 16%（468 名）、50 歳代 11%（301 名）、60 歳代 1%（19 名）、未記入 1%（40 名）であった（図 2）。

Ⅴ. 結果

Q1: あなたは理想の CE 像をお持ちですか？ に対し、SG は“はい” 85.4%，“いいえ” 13.1%、YG は“はい” 79.8%，“いいえ” 19.1%であった（図 3）。

Q2: (Q1 で“はい”と答えた方) SG: 理想の実現のために YG へ伝えていきたいことはありますか？ に対し、“はい” 82.1%、YG: 理想の実現のために SG から伝えていただきたいことはありますか？ に対し、“はい” 89.0%であった（図 4）。

Q3: (Q2 で“はい”と答えた方) SG: YG へ最も伝えていきたいことは何ですか？ に対し、“臨床工学技士として進むべき方向性” 46.2%，“実技” 14.1%、YG: SG に最も教えていただきたいことは何ですか？ に対し、“実技” 27.0%，“臨床工学技士として進むべき方向性” 22.2%であった（図 5）。

Q4: (Q2 で“はい”と答えた方) SG: YG へ伝えるためにどのような行動を起こしていますか？ に対し、“講習会やセミナーへの参加を促す” 40.6%，“積極的に教える” 34.2%、YG: SG から教えていただくためにどのような行動を起こしていますか？ に対し、“講習会やセミナーに参加する” 43.4%，“直接質問する” 41.9%であった（図 6）。

Q5: 技士会へ期待することは？ に対し、SG は“セ

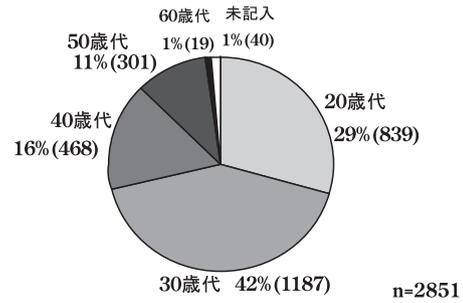


図 2 年代別割合

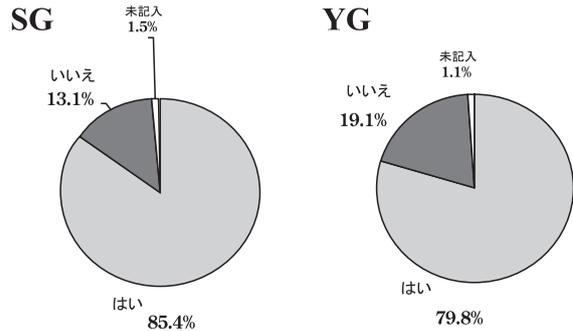


図 3 Q1: あなたは理想の CE 像をお持ちですか？

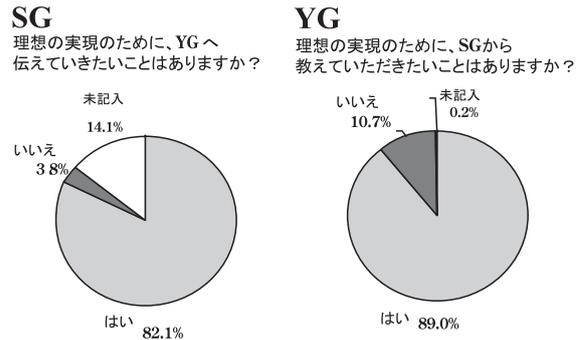


図 4 Q2: (Q1 で“はい”と答えた方) 理想の実現のために伝えたい、教えていただきたいこと

ミナーや講習会の開催” 55.6%，“手技マニュアルの統一化” 34.5% “意見交換の場を設けてほしい” 32.0%、YG は“セミナーや講習会の開催” 64.3%，“手技マニュアルの統一化” 36.3%，“意見交換の場を欲しい” 26.4%と SG と YG の多数意見が一致した（図 7）。

Q6: 技士会へ期待することは？ の自由記述欄への記載で多かった意見は、SG “生涯教育制度の構築” “人材育成” “セミナーの地方開催” で、YG は“セミナーの地方開催” “生涯教育制度の構築” であった（図 8）。

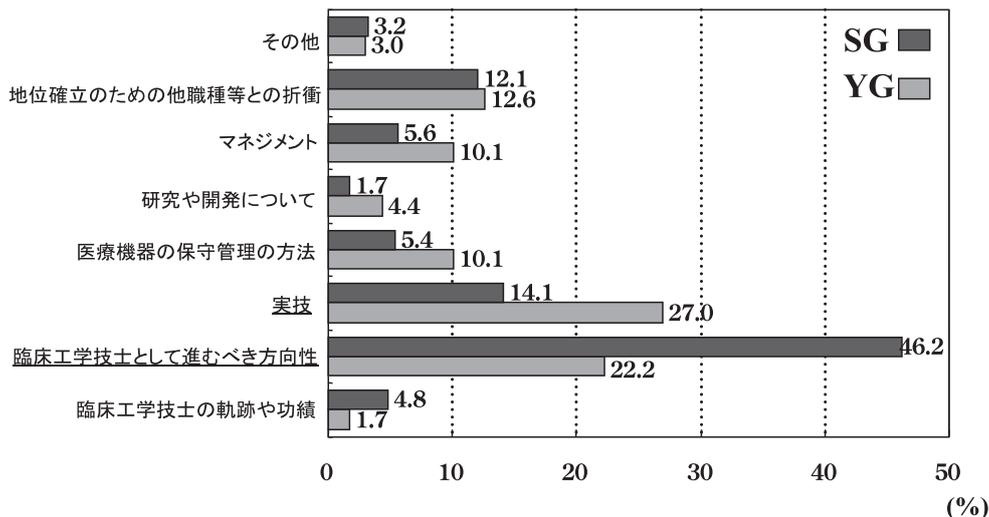


図5 Q3：(Q2で“はい”と答えた方)
 SG：YGへ最も伝えていきたいことは何ですか？
 YG：SGに最も教えていただきたいことは何ですか？

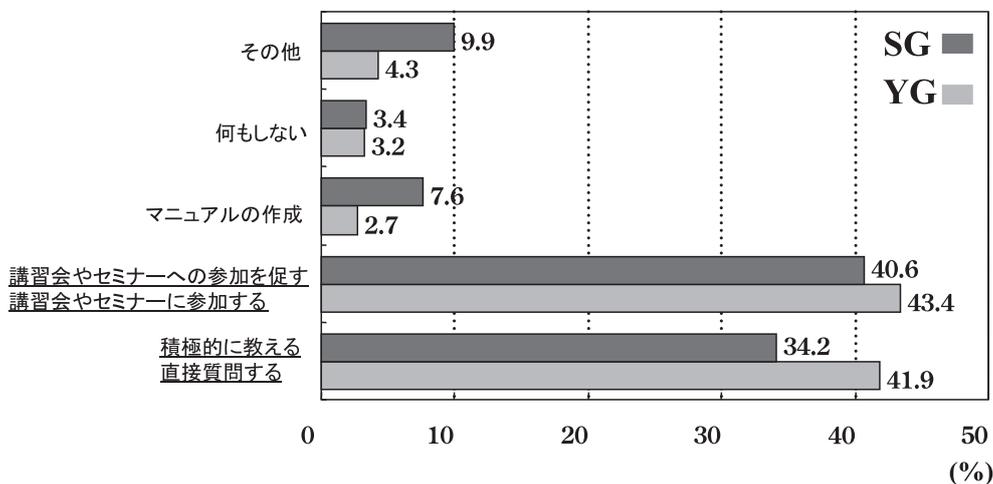


図6 Q4：(Q2で“はい”と答えた方)
 SG：YGへ伝えるためにどのような行動を起こしていますか？
 YG：SGから教えていただくためにどのような行動を起こしていますか？

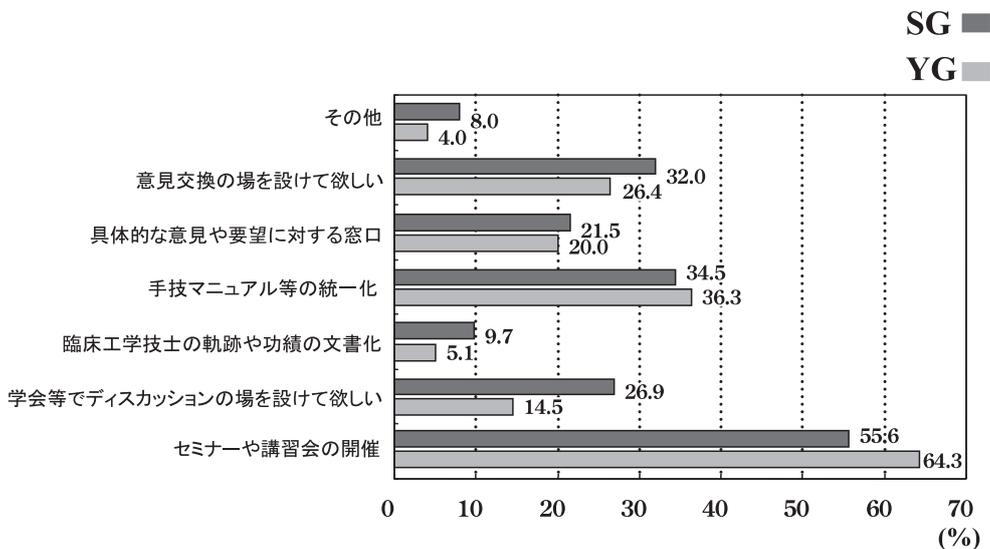


図7 Q5：技士会へ期待すること

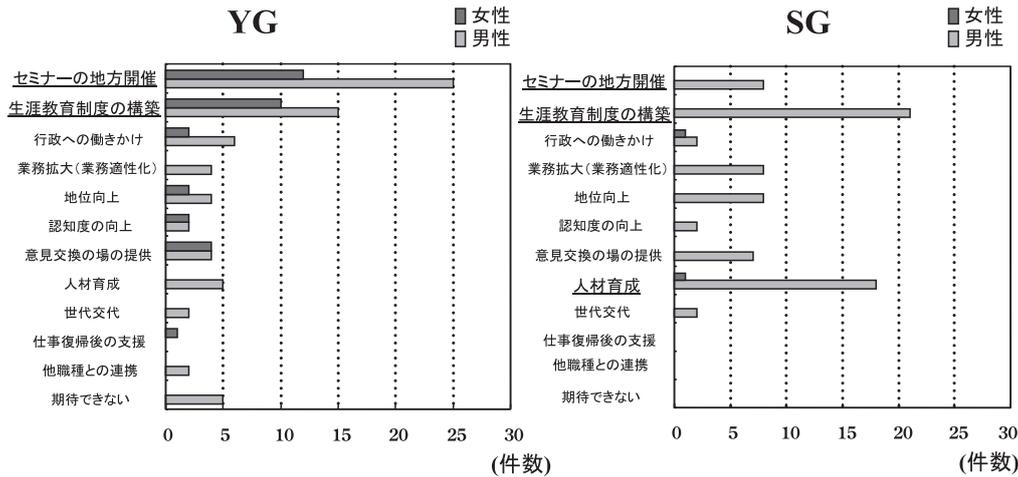


図8 Q5：技士会へ期待すること（自由記述）

VI. 考察

アンケートの結果、YGの約9割が“SGから教えていただきたい”，SGの約8割が“YGへ教えたい”と回答した。その内容はYG，SG共に“臨床工学技士として進むべき方向性”“実技”という回答が多かった。また、日臨工に期待することとしては“セミナーや講習会の開催”“手技マニュアルの統一化”“生涯教育制度の構築”“意見交換の場を設けてほしい”が多かった。

臨床工学技士が誕生し、20年という節目を迎えた今、諸先輩方が築き上げた“臨床工学技士”という職業を定着・発展させるためには、臨床工学技士ができた経緯や臨床工学技士という職業を定着させるために諸先輩方がどのようなことをしてきたのかを教えていただき、その上で今後の方針を検討していく必要があると思われる。アンケートの結果、“臨床工学技士として進むべき方向性”を伝えたい・教えていただきたいという意見が多いことから、今までの臨床工学技士誕生の歴史的意味・価値および基本理念等を十分に理解して、正確に継承できる人材の育成等の基盤づくりが必要であると考えられる。

また、これからの私たちは、単に継承するのではなく、常にその時代の背景を考えながら“臨床工学技士として進むべき方向性”について、これまでのいいところを取り入れたり、更に発展させるためにはどのような方向性で進んでいけばよいのかを、私たち一人一人がきちんと考え、ディスカッションしていく必要があると考える。

VII. 第20回日本臨床工学会：SY～臨床工学技士の存在意義を考える～を通じて、これからの臨床工学技士のあり方について

本学会のメインテーマと同じ「SY1：臨床工学技士の存在意義を考える」をテーマとして、司会は、守澤隆仁、長谷川静香（Y・ボード委員）、シンポジストは、若手CE：野川悟史（昭和大学横浜市北部病院）、吉岡 淳（山形大学医学部付属病院）、矢島真知子（琉球大学医学部付属病院）、ベテランCE：那須野修一（横浜労災病院）、Y・ボード：熊切の5名とした。また、特別コメンテーターとして小林力大会長（昭和大藤ヶ丘病院）に参加していただいた。まずは、Y・ボードがアンケート結果を示してから、若手CEとベテランCEのシンポジストがそれぞれの立場から継承したいことを述べ合い、今後の活動方針についてディベートを行った。

本シンポジウムでは、テーマが大きいということもあり全体としての方向性を導き出すには至らなかったが、諸先輩方の努力によって築き上げてきた臨床工学技士という職業を更に発展させていくためにも、エンジニアとしての創意工夫を忘れずに、世代間の融合を促進し、SGとYGがそれぞれの立場から継承について一丸となって臨床工学技士としての進むべき方向性について模索していくことが必要であること。また、“YGには常にchallengeの精神で医療環境の中での創意工夫や技士会活動について、ないものは作る、現在の状況が気に入らなければ参加を避けるのではなく参加して自ら変える気概を持って臨むべき”との見解が得られた。

VIII. 今後の展望

3年計画(図9)を基準として、アンケートの結果およびシンポジウム“～臨床工学技士の存在意義を考える～”より、今後の活動を考案した。

- ・臨床工学会等において、定期的にディスカッショ

ンする場を設ける。

- ・諸先輩方のこれまでの歴史や功績を文書化する(論文化することで価値を示し、後世へ“質”を引き継いでいくことができる)。
- ・SGのchallenge精神をより引き出すために、スキルアップ(進学や資格認定など)の種類や方法をわかりやすく提示し、スキルアップを促す。

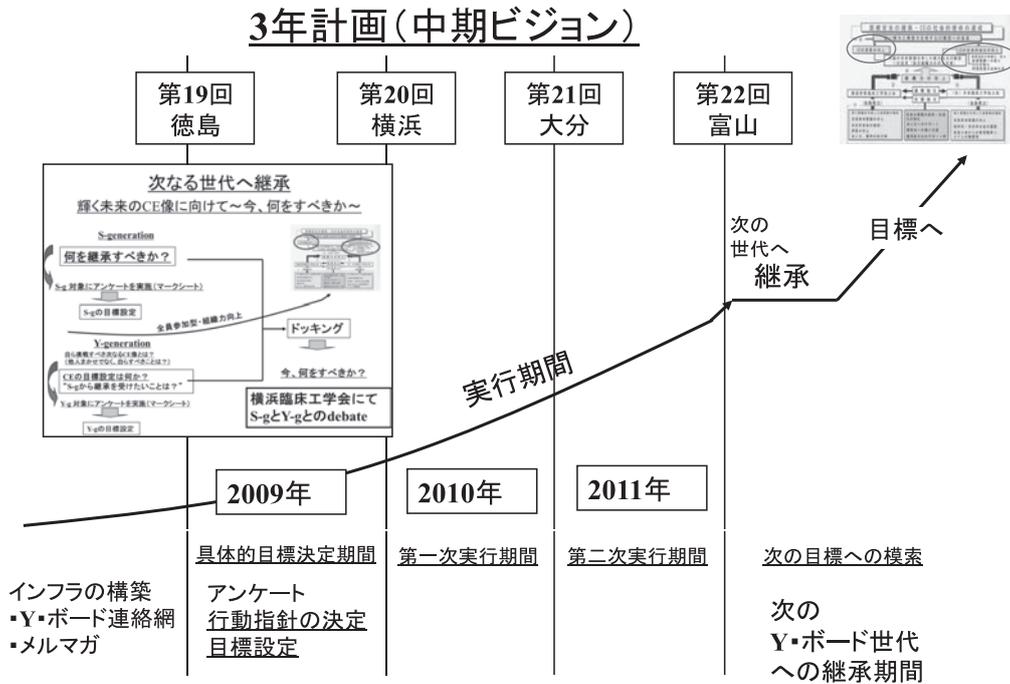


図9 Y・ボードの中期ビジョン(3年計画)

アンケート用紙

“次なる臨床工学技士像を目指しての挑戦”

【属性】

性別 1. 男 2. 女

年代 1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代 5. 60歳以上

地区 1. 北海道・東北 2. 関東・甲信越 3. 中部・北陸 4. 近畿 5. 中国 6. 四国 7. 九州・沖縄

※以下、20～30歳代の方は【YG】、40歳代以上の方は【SG】の設問にお答え下さい。

YG (20～30歳代の方)	SG (40歳代以上の方)
<p>Q1、あなたは理想のCE像をお持ちですか？</p> <p>1. はい 2. いいえ</p> <p>“はい”と答えた方のみ</p>	<p>Q1、あなたは理想のCE像をお持ちですか？</p> <p>1. はい 2. いいえ</p> <p>“はい”と答えた方のみ</p>
<p>→Q2、理想の実現のために、SGから教えていただきたいことはありますか？</p> <p>1. はい 2. いいえ</p> <p>“はい”と答えた方のみ</p>	<p>→Q2、理想の実現のために、YGへ伝えていきたいことはありますか？</p> <p>1. はい 2. いいえ</p> <p>“はい”と答えた方のみ</p>
<p>→Q3、SGに最も教えていただきたいことは何ですか？（ひとつ選んで下さい。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床工学技士の軌跡や功績（歴史） 臨床工学技士として進むべき方向性 実技 医療機器の保守管理の手法 研究や開発について マネジメント 地位確立のための他職種等との折衝 その他 	<p>→Q3、YGへ最も伝えていきたいことは何ですか？（ひとつ選んで下さい。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床工学技士の軌跡や功績（歴史） 臨床工学技士として進むべき方向性 実技 医療機器の保守管理の手法 研究や開発について マネジメント 地位確立のための他職種等との折衝 その他
<p>→Q4、SGから教えていただくためにどのような行動を起こしていますか？（ひとつ選んで下さい。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 直接質問する 講習会やセミナーに参加する マニュアルの作成 何もしない その他 	<p>→Q4、YGへ伝えるためにどのような行動を起こしていますか？（ひとつ選んで下さい。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 積極的に教える 講習会やセミナーへの参加を促す マニュアルの作成 何もしない その他
<p>→Q5、SGから教えていただくために、技士会へ何を期待しますか？（複数回答可）</p> <ol style="list-style-type: none"> セミナーや講習会等の開催 学会等でディスカッションする場を設けて欲しい 臨床工学技士の軌跡や功績（歴史）の文書化 手技マニュアル等の統一化 具体的な意見や要望に対する窓口 意見交換の場を設けて欲しい（意見交換会、HPへの書き込み等） その他（ ） <p>↳マークシート用紙の裏側へ記入してください。</p>	<p>→Q5、YGへ伝えていくために、技士会へ何を期待しますか？（複数回答可）</p> <ol style="list-style-type: none"> セミナーや講習会等の開催 学会等でディスカッションする場を設けて欲しい 臨床工学技士の軌跡や功績（歴史）の文書化 手技マニュアル等の統一化 具体的な意見や要望に対する窓口 意見交換の場を設けて欲しい（意見交換会、HPへの書き込み等） その他（ ） <p>↳マークシート用紙の裏側へ記入してください。</p>
<p>Q6、（全員お答え下さい。）仕事と家庭（育児）の環境整備（両立支援）のために、技士会へ期待することは何ですか？（複数回答可）</p> <ol style="list-style-type: none"> “臨床工学技士の仕事と家庭の両立に対する指針”の策定と冊子の作成 育児休暇制度の構築（復帰後の研修会、休暇からの復帰支援、育休中の人材の補填） 相談窓口の設置 意識啓発のための広報活動（ポスター作製等） 施設内の託児室設置支援 学会や講習会の会場に託児ルームの設置 講演会やディスカッションの場を設ける 意見交換の場を設けて欲しい（意見交換会、HPへの書き込み等） その他（ ） <p>↳マークシート用紙の裏側へ記入してください。</p>	

ご協力ありがとうございました。



(社)日本臨床工学技士会 組織委員会・Y・ボード

